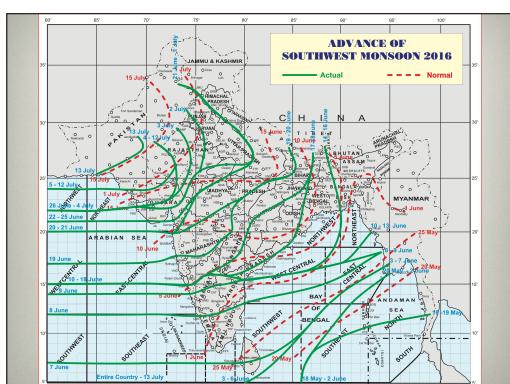




災害気候研究とは

大気組成の変化や、大気や海洋の循環変動による異常気象・異常天候の発現過程や予測可能性、気候変動とその機構に関する研究

大循環変動を理解し、
予測精度の向上を通じて
気象災害の減災に資する

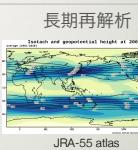


研究の道具

大気大循環モデル



データ同化



メカニスティックモデル



今日のお話

- ・ 数値天気予報の歴史
 - ・ 大気大循環モデルによる予測
 - ・ 台風進路予測実験
 - ・ 課題

数値予報の歴史

数値天気予報の父たち

- V. Bjerknes (1904)
原理的に数値天気予報は可能
- L. F. Richardson (1922)
手計算でやってみたが...
→145 hPa/6hの非現実的な気圧変化
- J. Charney, R. Fjørtoft and J. von Neuman (1950)
ENIACを使った1日予報

数値気象予測のための必要十分条件

- 1.現在の大気の状態の精度のよい推定値
- 2.大気の状態の時間発展を記述する精度の良い方程式系

BJERKNES, V., 1904: *Das Problem der Wettervorhersage, betrachtet vom Standpunkte der Mechanik und der Physik (The problem of weather prediction, considered from the viewpoints of mechanics and physics)*. - Meteorol. Z. 21, 1-7. (translated and edited by VOLKEN E. and S. BRO' NNIMANN. - Meteorol. Z. 18 (2009), 663-667).

Bjerknes 1904

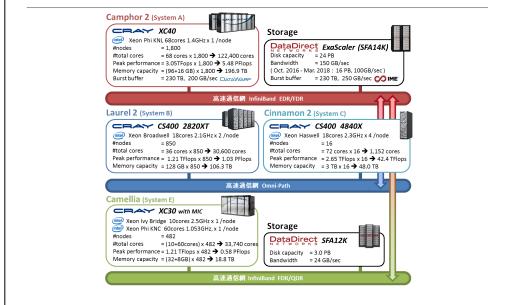
Richardsonの実験

- 鉛直に積分した浅水モデルでの理想実験
- 傾圧モデルでの気圧変化傾向の試算
• 145 hPa/6hの非現実的な気圧変化
- 将来高速な計算が可能になれば実現しうる夢

ENIAC: Electronic Numerical Integrator and Computer

- 世界最初の汎用電子計算機 (1946年)
- John Mauchly と Presper Eckertが設計
- Mauchlyは計算で天気予報をしたいと考え、コンピュータに興味を持った
- cf. Colossus: 英国でMax Herman Alexander Newmanが考案し、Thomas Harold Flowersが製作。ドイツの暗号解読に利用

本学の次期システム



大気大循環モデル

数値モデルとは

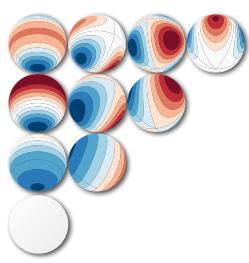
- 物理法則を
プログラムで表現
- 離散化
- パラメタ化

数値モデル

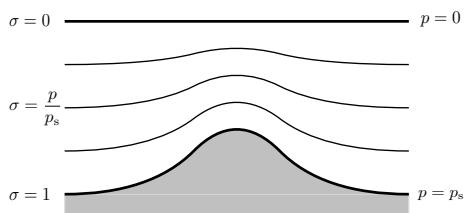
- 大気の従う法則
- 運動方程式
- 熱力学第一法則
- 連続の式
- 亜格子現象のパラメタ化
- 時空間離散化

球面調和函数

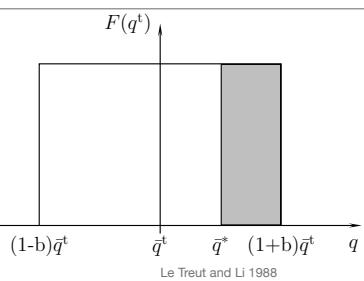
- ラプラス方程式の角度方向の解
- 三角切片で均一な解像度
- スペクトル変換法: 变数を毎回
变換
- 例えばT574のTは三角切片,
574は切片波数



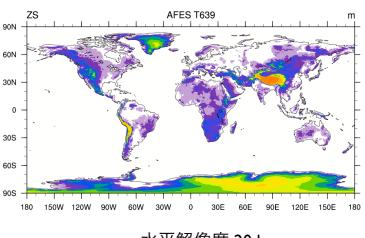
鉛直離散化



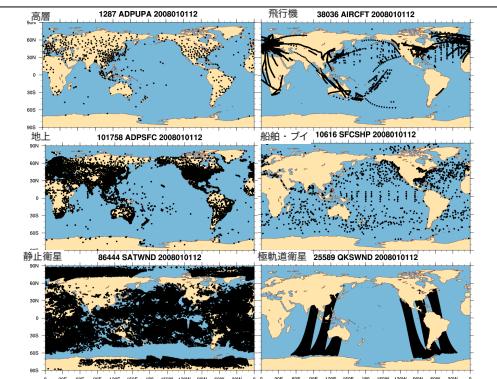
部分凝結



AFESに用いている地形

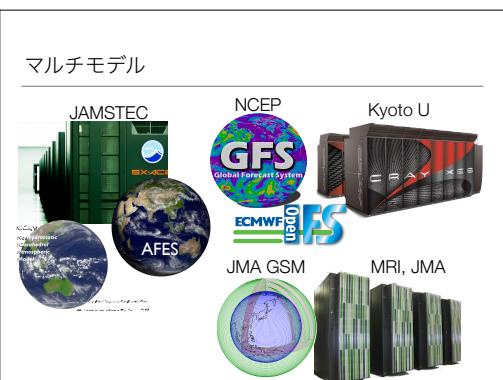
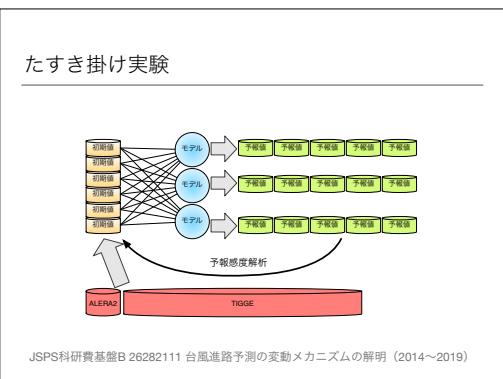
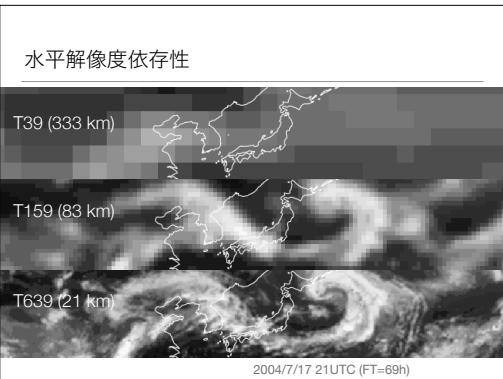


水平解像度 20 km

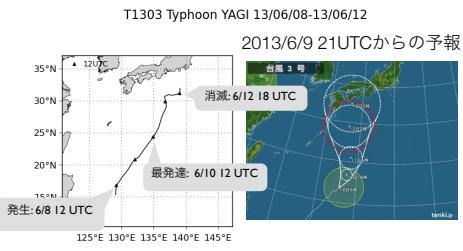


品質管理

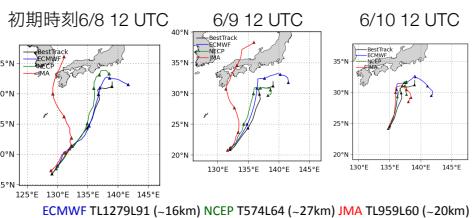
- データが信頼できるか確認。
- 可能なものは修正。
- 気候値や予報値から大きく外れていないか。
- 航路から外れていないか。



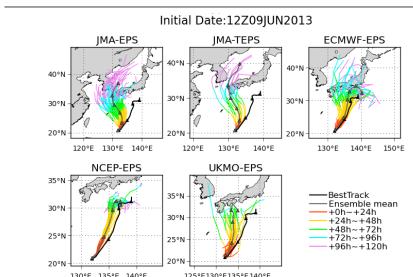
2013年台風第3号YAGI



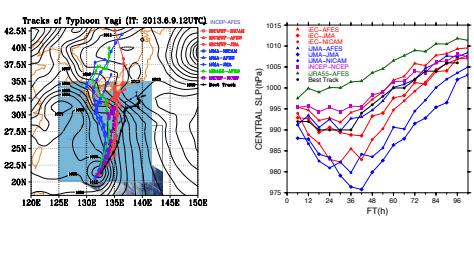
決定論的予報



アンサンブル予報



マルチモデル実験



OpenIFSによる進路予測

